

ジョブズコミュニティレポート 2023年8月号

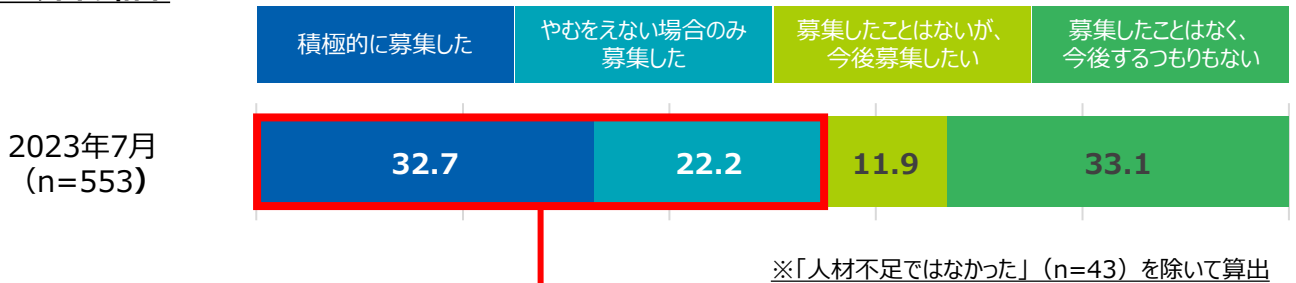
単発アルバイトを募集55.0%、人材不足対策として存在感高まる —飲食業を中心に多くの業種で10ポイント以上増—

Q 人材不足の対策として、直近1年以内（2022年7月以降）に単発アルバイト※を募集しましたか。

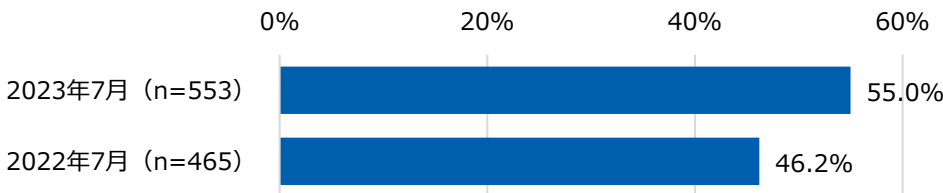
※ここでは1日単位から働けるアルバイト・パートを指します

■ 今回の結果

(%)



■ 直近1年以内に募集した割合



今回は、単発アルバイトの募集状況について企業経営者や人事担当者に伺いました。「積極的に募集した」と答えた企業は32.7%、「やむをえない場合のみ募集した」は22.2%で直近1年以内に単発アルバイトを募集した割合は55.0%に上り、前回46.2%より約9ポイント増加しました。

業種別では飲食業と小売業で6割を超え、特に飲食業は前回51.4%から65.4%まで14ポイント増加しています。飲食業では1日や週のなかで繁閑差が大きいことや急な予約対応などにより突発的な人材ニーズが発生しやすく、単発アルバイトと相性が良いことが増加の理由として考えられます。また、サービス業や医療・福祉関連業、製造業・建設業でも募集した割合がそれぞれ10ポイント以上増えていますが、全産業的な人材不足のために単発アルバイトを募集していることが予想されます。

単発アルバイトは通常のアルバイト・パートに比べて人件費が高くなる場合があることや、その場限りの人材補充で継続的な人材不足解消につながりづらい側面もあります。そのため既存の人員でどうしても対応しきれない場合に限って単発アルバイトを募集するという声も聞かれますが、結果を見ると「積極的に募集した」が「やむをえない場合のみ募集した」を10ポイント以上上回りました。いざというときの最終手段ではなく、より身近な選択肢として検討されるようになってきているのかもしれません。

ジョブズリサーチセンターがおこなった「<学生版> 求職者の動向・意識調査2023」では、単発アルバイトの主な働き手である学生にイメージを聞いています。「空いた時間を有効活用できる」が最多62.9%、「お金が必要な時にすぐ手に入る」が次いで56.6%となり、タイプ（タイムパフォーマンス）意識が高い最近の学生にとって空いた時間にすぐ稼げるという点が支持されているようです。

- アンケート実施期間：
2023年7月21日(金)～7月27日(木)
- 有効回答数：596人
- 対象：人材インフォメールマガジン会員
(主な会員は経営者、人事担当者)

- 本レポートに関するお問い合わせ先
jbrc@r.recruit.co.jp
- その他のアンケート結果はこちらから
https://jbrc.recruit.co.jp/tag/tag_38.html

※レポート内の数値は、集計結果の小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100にならない場合があります

(%)

